

資料4

公立大学法人北九州市立大学の平成28年度に係る業務の実績及び 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価調書

○全体評価調書

○分野別調書

記 入 要 領

北九州市地方独立行政法人評価委員会

平成29年7月

③ 全体

【全体評価】

③【全体評価】 ■評価委員が記述(箇条書き)

- 分野別評価の結果や大学の実績を端的に示す指標等を参考にしながら、中期計画の進行状況全体について『評価委員会』による評価(特筆すべき点や遅れている点、その他の意見等を記述)

- ・ 事業の実施状況について(分野別・分野横断的な事項の実施状況等について)
- ・ 業務運営の改善・効率化等について
- ・ 財務状況について
- ・ 法人のマネジメントについて
- ・ 市民への説明責任と透明性の確保について
- ・ 地域貢献を目指した特色ある取り組み等について

公立大学法人北九州市立大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する全体評価調書
(中期目標期間:平成23年4月1日～平成29年3月31日)

③ 全体

【全体評価】

③【全体評価】 ■評価委員が記述(箇条書き)

- 分野別評価の結果や大学の実績を端的に示す指標等を参考にしながら、中期目標期間の業務実績の全体について総合的な視点から『評価委員会』による評価(特筆すべき点や遅れている点、その他の意見等を記述)
 - ・ 事業の実施状況について(分野別・分野横断的な事項の実施状況等について)
 - ・ 業務運営の改善・効率化等について
 - ・ 財務状況について
 - ・ 法人のマネジメントについて
 - ・ 市民への説明責任と透明性の確保について
 - ・ 地域貢献を目指した特色ある取り組み等について

公立大学法人北九州市立大学の平成28年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する分野別・項目別調査

<中期計画の4つの分野>

- I 教育
- II 研究
- III 社会貢献
- IV 管理運営等

それぞれの分野について評価を行う

【中期目標期間に係る業務の実績に関する分野別評価】

I 教育

●大学の自己評価に対する検証結果や特記事項を踏まえ、下記指標に照らして5段階評価
 S:「中期目標の達成状況が非常に優れている」(評価委員会が特に認める場合)
 A:「中期目標の達成状況が良好である」(すべてIVまたはIII)
 B:「中期目標の達成状況がおおむね良好である」(IVまたはIIIの割合が9割以上)
 C:「中期目標の達成状況が不十分である」(IVまたはIIIの割合が9割未満)
 D:「中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」(評価委員会が特に認める場合)

評価結果

中期目標期間の評価の経年変化					
H23	H24	H25	H26	H27	H28
A	A	A	B	B	

③ 全体(2P、3P)

② 分野別

【平成28年度に係る業務の実績に関する分野別評価】

I 教育

●大学の自己評価に対する検証結果や特記事項を踏まえ、下記指標に照らして5段階評価
 S: 特筆すべき進行状況(特に認める場合)
 A: 計画どおり(すべてIVまたはIII)
 B: 概ね計画どおり(IVまたはIIIの割合が9割以上)
 C: やや遅れている(IVまたはIIIの割合が9割未満)
 D: 重大な改善事項がある(特に認める場合)

5段階評価

●項目別の評価を踏まえた『評価委員会』による評価
(特筆すべき点や遅れている点について記述)

公立大学法人北九州市立大学の平成28年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する分野別・項目別調書

② 分野別(4P、5P)

① 項目別

■大学が記載済み
【中期計画の実施状況を自己評価(4段階評価)】
中期計画の項目ごとに、当該年度計画の実施状況等を下記指標に照らして大学が自己評価
<評価指標>
IV: 中期計画を上回って実施している
III: 中期計画を概ね順調に実施している
II: 中期計画を十分に実施できていない
I: 中期計画を実施していない

■大学が記載済み
【年度計画の実施状況を自己評価(4段階評価)】
年度計画の項目ごとに、当該年度計画の実施状況等を下記指標に照らして大学が自己評価
<評価指標>
IV: 年度計画を上回って実施している
III: 年度計画を概ね順調に実施している
II: 年度計画を十分に実施できていない
I: 年度計画を実施していない

策定済(計画に掲載された内容)		策定済(計画に掲載された内容)		大学による自己評価		評価委員が記入
中期計画	進行状況 評価	平成28年度計画	進行状況 評価	平成23~27年度及び平成28年度の実施状況等		評価理由及び意見
3 ③ 英語力の全学的な養成 基盤教育センターでは、英語力に応じた到達度別クラス編成と少人数教育、TOEICなど公的資格の単位認定への活用を通して、2年次修了時までTOEIC470(TOEFL: PBT460)点以上*到達者の割合50%以上を目標とする。	IV		IV	(平成23~27年度) <北方キャンパス4学部における2年次修了時TOEIC470点以上到達者の割合> H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 56.7% 54.4% 51.3% 52.3% 51.5% <ひびきのキャンパスにおける2年次修了時TOEIC470点以上到達者の割合> H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 8.0% 17.9% 26.0% 38.8% 44.5% <全学における2年次修了時TOEIC470点以上到達者の割合> H23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 47.4% 47.2% 46.1% 49.6% 50.0%		(中期目標期間) ○北方キャンパスでは、数値の大幅な上昇は見られないものの、ひびきのキャンパスでは、毎年着実に大きく数値が上昇しており、全体の数値目標の達成につながっており、評価できる。 ○ ○
		3-1 ③ 英語力の全学的な養成 到達度別クラス編成と少人数教育、TOEICなど公的資格の単位認定への活用のほか、北方キャンパスでは、eラーニング教材を活用した自学自習を促す。また、ひびきのキャンパスでは、補習授業や英語学習アドバイザーの活用により学生の英語学習のサポートを行う。	IV	(平成28年度) <北方キャンパス4学部における2年次修了時TOEIC470点以上到達者の割合> H28年度 51.5% <ひびきのキャンパスにおける2年次修了時TOEIC470点以上到達者の割合> H28年度 47.5% <全学における2年次修了時TOEIC470点以上到達者の割合> H28年度 50.7% *平成27年度以降、目標達成		(平成28年度) ○.....であり、高く評価できる。 ○.....を期待する。 ○.....は、着実に成果をあげている。 ○.....により成果があがっているが、.....が必要である。 ○.....の強化が望まれる。

●中期計画の進行状況等を踏まえ、中期計画の項目ごとに、下記指標に照らして4段階評価
<評価指標>
IV: 中期計画を上回って実施している
III: 中期計画を概ね順調に実施している
II: 中期計画を十分に実施できていない
I: 中期計画を実施していない

●年度計画の進行状況等を踏まえ、年度計画の項目ごとに、下記指標に照らして4段階評価
<評価指標>
IV: 年度計画を上回って実施している
III: 年度計画を概ね順調に実施している
II: 年度計画を十分に実施できていない
I: 年度計画を実施していない

●大学の自己評価と評価委員の判断が異なる場合は、その理由を記述。
●判断が同じ場合でも、特筆すべき点があれば、その旨を記述。